

に い が た ろうしきょう NEWS

新潟県老人福祉施設協議会広報誌

2018. 7. 20 NO. 33

巻頭シリーズ・元気な笑顔が素敵！ すまいる介護マン



お孫さんの結婚式に車椅子で参列。
亡くなった今もあの時の笑顔が
浮かびます。

すまいるマン 木村英樹 さん

- 所属 特別養護老人ホーム 白鳥荘 介護職
- 経歴 1974年8月神奈川県生まれ
水原高校～和泉福祉専門学校卒 阿賀北
総合福祉協会に入職後、同協会「はぐろ
の里」を経て現職。介護福祉士。
- 趣味 魚釣り、バイク



阿賀野市と福祉先進国フィンランドとの交流から取り入れた知恵。手すりなどがわかりやすく色分けされたトイレ。ユニットごとに入り口他、テーマカラーを変えるなど、機能的なだけでなく美しいデザインが素晴らしい。



特別養護老人ホーム 白鳥荘

- 社会福祉法人 阿賀北総合福祉協会
- 特別養護老人ホーム 120名
ショートステイ 20名
- 新潟県阿賀野市百津88番地
TEL 0250-62-0333

1 エントランスを入ってすぐの空間は地域交流スペース。明るく広い空間で、地域の方との交流イベントや啓蒙、研修活動が行われている。

母は今も現役の
ホームヘルパー。
その姿に影響を
受けました。



2 ウォーターマッサージベッド(左)、楽しく体を動かすゲーム機(右)。広い施設内の各所に新しい機器が取り入れられている。

■忘れられないこと 専門学校時代の施設実習で入居者様と施設の夏祭りに行きました。数分で「部屋に戻ろう」と言われたのですが、私は「もう少ししましよ」と、少しひきとめたんです。その方は、数日後に亡くなりました。持病のためでしたが「あの時、部屋に戻っていれば」。初めて死に直面し、心が押し潰される思いでした。だけど今も、その方の夏祭りの日の笑顔が浮かぶんです。以来、私のモットーは「生活の中で喜怒哀楽を引き出す」。人は笑顔だけでなく、哀しいことも怒ることもある。亡くなってから、こんな顔があった、とみんなが思い出す。そんな、その人らしい生活を過ごして頂きたいと思うのです。

■今後の自分 法人・白鳥荘の経営理念である「しあわせと進歩」「謙虚と初心」「笑顔とやさしさ」。この基本を忘れず、入居者様、職員の話聴き前向きに仕事をしていきたいです。



目標のない仕事は楽しくても充実感がない。

■就職の理由 介護を志したきっかけは、今でもホームヘルパーをしている母です。いきいきと生きがいをもって仕事をしている姿に影響を受けて、高校卒業後、神奈川県福祉専門学校へ入学。そこで介護のやりがい、楽しさを知りました。卒業後、長男なので「帰ってこい」と。縁があつて現在の阿賀北総合福祉協会に入りました。

■仕事のポイント 入職して何十年か経った頃、施設での取り組みを、新潟県老協で研究発表させて頂く機会がありました。職員全員で取り組んだ「排泄の自立」についての研究です。私を含む四人が中心となって無事発表できたのですが、終わった時は充実感であふれましたね。この時、「仕事をする際に目標を持つこと」の大切さを改めて感じました。目標のない仕事は、楽しさはあっても充実感がないんですね。

会長



今年度も引き続き会長を務めさせていただきます。どうかよろしくお願いします。4月の介護報酬の改定では、0.54パーセントの報酬アップがなされました。コマの位置が一つ違うような気がしますが、とりあえずダウンでなく良かったと思います。

私たちの業界では、相変わらず人材不足が続いています。新潟県からもご協力いただき対策を進めていますが、政府の骨太の方針では介護は単純労働に位置づけられているのが現状です。今年度は、私たちの福祉の仕事は、単純な仕事ではないことを地域の皆さまにしっかりと伝えていく事が新潟県老施協としての使命だと思っています。そのため会員施設の人材育成と地域貢献に力を入れていく1年にしたいと思っています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

高橋是司（たかはし せいじ）
在宅介護支援センター白ふじの里 センター長

●新役員の顔ぶれ●

副会長



このたび、老施協の副会長を仰せつかり身の引き締まる思いと、大変なことになったという思いを感じています。介護現場では、「介護を必要としている人を支援したい」という献身的な思いで就職した職員が、自分の将来に希望が持てない状況に陥っている現状が見え隠れしているように思います。だからこそ、質の高いサービスの提供を目指し職員の人材育成が重要であると思います。

微力ではございますが、精一杯努力してまいりますので皆様のご支援と各種研修会や事業活動へのご参加をよろしくお願いいたします。

山田淳子（やまだ じゅんこ）
特別養護老人ホームみなみ園 施設長

業務執行理事



このたび、「いなほ園」の中里理事（前副会長）・「さくら聖母の園」の松矢理事の後任として理事に就任することになりました、「よねやまの里」の施設長石田です。

老施協の理事と申しますと、当施設の前施設長から常々重責であることを見聞しており、決して私には務まらない責務であると感じておりました。

しかし、このたびの就任も何かのご縁と前向きに捉え、私なりに老施協の発展に取り組んで参る所存でございます。旧に倍してご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

石田浩二（いしだ こうじ）
特別養護老人ホームよねやまの里 施設長

業務執行理事



このたび、ご信任いただきましたので、新潟県老人福祉施設協議会並びに会員各位の皆様のご発展に鋭意努力致します。

さて、老施協とは介護保険制度元年に職種別部会（旧組織）が介護支援専門員部会を立ち上げる際、副部会長並びに部会長を務めました。それまで生活相談員部会の一員でしたが、高橋会長はじめ諸先輩方のご指導を受けながら、何とか任務を全うできたことが懐かしく感じます。その後は施設の長として、ご支援並びにご指導いただきましたが、今後は少しでも皆様のお役にたてるよう精進します。どうぞ宜しくお願いします。

金子美朗（かねこ よしろう）
特別養護老人ホームいなほ園 園長

監事



このたび、監事を拝命致しました、税理士の土田 隆と申します。一般的に監事は監査を担当し、監査は業務監査と会計監査とに分かれますが、業務監査は弁護士の磯部 亘先生が担当され、私の方は会計監査を担当いたします。

会計監査は、皆様からお預かりしたお金がどのように使われたのかが、適切に記録されて、きちんと報告されているか、記帳と報告内容が正しいことを検証することです。微力ではございますが、県老施協の一助となり、お役にたてるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。

土田 隆（つちだ たかし）
税理士法人新潟合同事務所愛宕事務所 代表社員税理士

平成 30 年度第 1 回管理者研修会

平成 30 年 5 月 29 日(火)

「非営利組織の法人経営のガバナンス、内部統制について」と題し、公益社団法人全国老人福祉施設協議会 常務理事 金沢俊弘 氏による研修会を定時総会後に開催しました。

研修会を受講して

特別養護老人ホームはまゆう 施設長 高橋英樹

社会福祉法改正により社会福祉法人としての在り方が問われている中、非営利法人としての役割から法人全体のガバナンスや内部統制管理に至るまで今後事業経営する上で大変参考になる研修でした。社会福祉法人としてのミッションとビジョンを示すことで本質的な役割や方向性などを地域社会と一体となり且つ透明性を担保しながら事業経営していくかは大変重要な視点であります。そして、組織が目指す将来の理想像を描き、「何を成し遂げたいのか。」を考慮しながら社会全体に示していくことが求められている事を痛感しました。社会福祉法人に対する風当たりが強い中ではありますが、利用者、家族、地域そして職員と共に社会に貢献できる事業経営していくことへの社会的責任を痛感しました。



第 2 3 回新潟県老人福祉施設研究大会

平成 30 年 9 月 26 日(水)～ 27 日(木)

共に生きる

人

信頼

～ 地域を支える介護の可能性 ～

■第 1 日目【全体会】

9 月 26 日(水) 13:00 ～ 16:45

■第 2 日目【分科会】

9 月 27 日(木) 9:30 ～ 15:30

■会場 NASPA ニューオータニ

南魚沼郡湯沢町湯沢2117-9

TEL 025-780-6111 (代表)

記念講演 I

「生きがいの創造 ～スピリチュアルな科学研究から
考察する、前向きに生きるための思考法とは？」

経営心理学者 飯田史彦 氏

記念講演 II

「福祉施設経営における自立支援介護の重要性」

東洋大学ライフデザイン学部

准教授 高野龍昭 氏

新潟県開催

平成 30 年度関東ブロックカンントリーミーティング in 新潟

平成 30 年 11 月 26 日(月)～ 27 日(火)

会場：ホテルニューオータニ長岡

新潟県長岡市台町2丁目8番35号(長岡駅東口) TEL 0258-37-1111 (代表)

カンントリーミーティングとは、全国老施協が目指す「現場の声が制度をつくる」を、最も体現した研修会の一つです。一番現場に近い若手リーダーが、当事者世代として発言し、その声を国・業界へ届けるとともに、お互いのノウハウを共有し具体的な課題解決方法へ導きます。様々な職種・立場による視点から複合的にディスカッションし、共に「これから」を創っていきましょう。ご参加お待ちしております。



公益社団法人全国老人福祉施設協議会

21世紀委員長 徳永 憲威 氏

ふれあいホッとコンサート開催 平成30年6月6日(水)

会場：特別養護老人ホームとっさか

初夏の清々しい風に乗り、とっさかふれあいホッとコンサートが開催されました。ご利用者始め、ご家族、ボランティアの皆様、大勢の方に駆けつけて頂いた中、素晴らしい演奏が始まりました。プロの方の演奏を聴くことが初めてな私は、それは、それは、エレガンスで魅力あふれる世界に引き込まれて行くのに時間は掛かりませんでした。そして、いつまでも幾つになっても開けて思い起こせる心の玉手箱を手にしたように思えました。

それに何よりも、コンサート後のご利用者の満足そうな表情も忘れられません。

ご協力を頂いた皆様に感謝申し上げます。

[園長 阿部利昭]



左:奥村 愛さん(ヴァイオリン) 右:山宮るり子さん(ハープ)



施設(うち)の一品

第2ブロック

特別養護老人ホームはもちの里

はもちの里では、ご利用者に食を通じて季節を感じていただけるよう、四季折々の郷土料理やおやつを提供しています。5月は端午の節句にちなんで、たいごろ(お団子)を、おやつの時間に提供しました。たいごろは、この時期になると運動会や農作業のおやつ等として地元で昔から作られていて、普段は茅の葉で包みますが今回は笹の葉で包んで作りました。厨房より出来たてを提供してもらい召し上がっていただきました。

皆さんが、「珍しい物を食べられて良かった」、「とてもおいしかった、また食べたい」など、ふだんあまり食べない方もぺろりと一つ食べてしまうほど大変好評でした。

(担当：梅澤 健)



第4ブロック

特別養護老人ホームうおの園

うおの園は、魚沼市にありますがお盆の頃には郷土料理でもある、『ぜんまい煮』と『ぼうだら』が行事食に出ます。お盆の時期になると、どこの家でも作って食べていました。『ぜんまい煮』は血をキレイにするとか血を作ると伝えられ、昔はお産の時にはよく『ぜんまい煮』を食べていたそうです。『ぼうだら煮』は乾燥させた鰯を甘露煮に煮たものです。一週間位かけ、水から戻してコトコトと煮るそうです。夏の腐りやすい時期の魚料理として、夏祭りやお盆の時期に作っています。ですので、うおの園でも行事食として、お盆の時期に作ってお出しすると、「めずらしいね〜」「そういえば時期だの〜」と話され喜ばれています。

(担当：田邊奈緒美)



施設(うち)の自慢

第3ブロック

デイサービスセンター岡南



施設(うち)の自慢は何と聞かれたら、誰もが大きな貼り絵を思い浮かべます。貼り絵と言っても模造紙2枚分の大きさに貼ってあるのは色とりどりの「折り鶴」たち。

元々は役目を終えた千羽鶴でしたが、折角ならもう一花咲かせたいと考え、色ごとの仕分けや足りない色の鶴作りをご利用者の皆さんが中心となって取り組み、完成させた“大作”です。法人の文化祭や地域の作品展などにも展示され、処女作(写真右)は



大きなインパクトを残しました。写真を含め四季に合わせて4枚の絵が飾られています。近くにお越しの際は、ぜひ見にいらしてください。(担当：内山真吾)

「ONの私」 「OFFの私」



第1ブロック
広域型特別養護老人ホームシンパシー
介護職員

高橋真博さん

介護の仕事でもレクや行事が大好きで様々な企画をしている高橋真博さんですが、現在、郷土のお祭りのパレードに向けて、郷土玩具の金魚台輪を作製しているということです。

「金魚台輪を作製している地域は珍しいので伝承が途絶えないように頑張っています。また、毎年パレードに参加することも楽しみにしています」と介護の仕事に励みつつ、地域貢献も兼ねて郷土の伝承文化を守るため、「ON、OFF」をうまく切り換えて日夜奮闘しています。

(紹介者：吉田浩司)



第5ブロック
特別養護老人ホーム名香山苑
介護職員

丸山暁生さん

皆さんはハーバリウムを知っていますか。ハーバリウムとは植物標本という意味でボトルにドライフラワー等の花材を入れ、専用のオイルを注いで作るものです。テレビの特集をみて「きれいだな」と思ったことがきっかけで、はまってしまいました。作り方は簡単ですが、実際に作ってみると花の向きや位置等の調整が難しく、オイルを注ぐと花材が浮いたり沈んだり、思ったとおりにできません。でも、それが面白くもあり奥深く、出来上がると充実感が湧いてきます。

最近は、出来の良い作品をケアセンター前に飾り、入所者様の癒される表情や話題にしているのを見聞きして新たなやりがいを感じています。

(紹介者：引場秀和)



ほっと心が和む里、 いつでも聞こえる笑い声

特別養護老人ホームつかのめの里 園長

村山裕子さん

●施設長リレーコラム●



つかのめの里は、東に守門・栗ヶ岳を望み、西には弥彦の霊峰を仰ぐ緑鮮やかな環境の地にあります。窓から見える田んぼは、春夏秋冬それぞれの景色で私たちを和ませてくれます。中庭のヤマボウシは、涼やかな白い花と赤い実で私たちの目を楽しませてくれます。

開設から24年の月日が流れ、事業は、長期入所、短期入所、通所介護、居宅介護支援センター、地域包括支援センター、配食サービス、ライフケア花みずき(小規模多機能型居宅介護施設)、グループホーム花みずき、共用型認知症対応型通所介護と9つに増えました。

でも私たちの目指すものは、変わらず「ほっと心が和む里いつでも聞こえる笑い声」です。ご利用者にとっても、職員にとってもそんな笑顔溢れる場所にしたいと思っています。

つかのめの里には三大行事があります。6月の青空と爽やかな風を感じる外での大運動会。8月の家族とバイキングで

楽しむ納涼祭。職員の出し物が光ります。そして11月の地域に向けたつかのめの里フェア。フェアでのフィナーレの2階吹き抜けからのお菓子まき(本当は建て前の餅まきが再現したかった)は、圧巻です。

つかのめの里では、他にも多くの行事があります。日常とは異なる行事の中で、楽しい時間を作るをモットーに企画しています。

園の草取りも少しポップにボランティアデーとネーミングしています。ご家族始め、地域の中学校、スポーツ少年団、民生委員など、100人を超えるたくさんの方からご協力頂き、草取り後は、豚汁とおにぎりを食べながら交流を図ります。遊び感覚を取り入れた行事です。何か、ワクワクしませんか？

これからも、楽しいことが大好きな職員と共に、「ほっと心が和む里、いつでも聞こえる笑い声」に向かってご利用者の笑顔の花を咲かせるために頑張っていきたいと思います。



ボランティアデーは、年2回行われます。



職員の子供を対象としたキッズ職場体験ツアー☆



納涼祭は、職員の腕の見せ所！



手作りダンボールみこしが、活躍します！



つかのめの里フェアのお菓子まきは大人気!!!

事業所所在地 新潟県三条市塚野目2380-2

運営事業者 社会福祉法人 県央福祉会

事業所の種類 特別養護老人ホーム 80名
ショートステイ 20名

連絡先等 TEL 0256-38-5865
FAX 0256-38-5747

新事務局員よりご挨拶

2月よりお世話になっております、長谷川弘美と申します。
広報の「すまいる介護マン(ウーマン)」「施設の自慢」「施設の一品」「OFFの私」「施設長リレーコラム」等、「出たい!」「うちの施設を掲載して!」という方は、ぜひご一報ください。掲載予定等調整させていただきます。ご連絡お待ちしております。

4月よりお世話になっております、浅妻栞と申します。
事務局としての仕事を通して、少しでも会員の皆様のお役に立てるよう、努力して参ります。至らぬ点もあるかと思いますが、これからご指導のほど、よろしくお願いいたします。

発行所 一般社団法人 新潟県老人福祉施設協議会
新潟県新潟市中央区上所2丁目2-2 新潟ユニゾンプラザ2F
電話 025-281-5534 発行人 高橋是司
にいがたろうしきょう NEWS 平成30年7月20日発行